

図1 SPF 豚農場におけるワクチン接種方法と離乳後および各飼育ステージにおける事故率

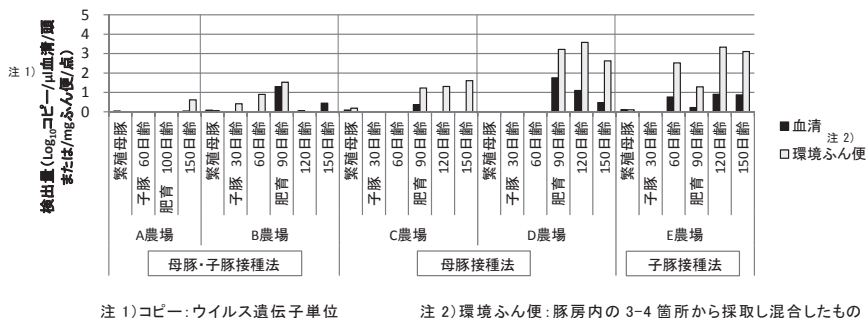


図2 SPF 豚農場5戸におけるワクチン接種方法と飼育ステージ毎のPCV2検出量

注1) コピー：ウイルス遺伝子単位

注2) 環境ふん便：豚房内の3～4箇所から採取し混合したもの

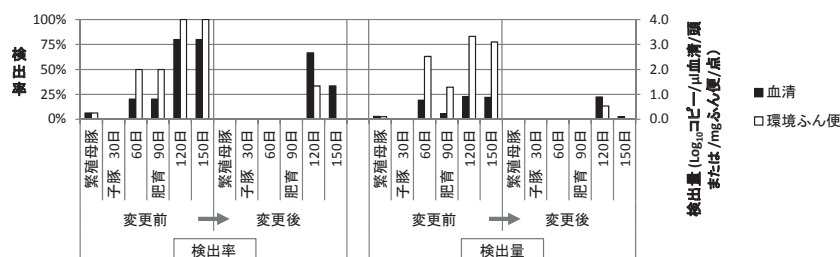


図3 子豚接種法から母豚・子豚接種法へ変更したE農場のPCV2検出率と検出量の変化

表1 子豚接種法から母豚・子豚接種法に変更した時の所得増加試算（母豚150頭、事故率1.5ポイント改善）

・出荷頭数の増加	: 1 母豚あたり年間離乳頭数 24 頭 ^{注1)} × 母豚 150 頭 × 事故率改善 0.015 = 54 頭
・枝肉販売額の増加	: 54 頭 × 枝肉重量 73kg × 枝肉価格 450 円/kg = 1,773,900 円 (A)
・飼料費の増加	: 54 頭 × 1 肉豚あたり飼料費 20,200 円 ^{注2)} × 0.6 ^{注3)} = 654,480 円 (B)
・母豚接種ワクチン代	: ワクチン 1,300 円/頭 × 150 頭 × 年間分娩回数 2.4 回 = 468,000 円 (C)
○所得増加 = 枝肉販売額増加 - (飼料費 + ワクチン代増加): A - (B + C) = 651,420 円	

注1) 上記下線部分の値は、H27 実態等から前提条件として仮定した。

注2) 肉豚の飼料費 20,200 円/頭: 肉豚飼料要求率 2.7 × 出荷体重 115kg × 飼料価格 65 円/kg

注3) 平均事故日齢を子豚期の 90 日齢と仮定し、90 日齢～出荷までの飼料費＝全体の 60%と仮定

詳しい内容については、次にお問い合わせ下さい。

道総研畜産試験場 基盤研究部 家畜衛生グループ 及川 学

電話 (0156) 64-0615 FAX (0156) 64-6151

E-mail: oikawa-manabu@hro.or.jp